



## プレスリリース

UICC は、世界対がんデーにがん医療のギャップを埋めるための実用的な推奨事項を提供します

*世界がんデー2024 エクイティレポートのアクションとリリースへのグローバルコール*

2024年1月29日 - スイス、ジュネーブ - 国際対がん連合（UICC）は本日、[2024年世界対がんデー・エクイティ・レポート](#)を発表しました。このレポートでは、世界各地におけるがん医療における不平等に関する地域の見解と経験、およびそれらに対処するための専門家の提言をまとめています。

特に、オーストラリア、ブラジル、中国、香港、ケニア、レバノン、日本、ヨルダン、インド、マレーシア、メキシコ、ナイジェリア、ポルトガル、南アフリカ、スウェーデン、トルコ、英国のがんリーダーからの洞察と見解が含まれています。

UICC は 2000 年移行、2 月 4 日を世界対がんデーと定め、年間で最大規模の健康啓発デーに変貌させました。2024 年は「[がん医療のギャップを埋めよう](#)」キャンペーンの最終年であり、不可欠ながんサービスの利用可能性とアクセスにおいて世界中で根強く残る重大な不平等を浮き彫りにしています。

「UICC の『世界対がんデー・エクイティ・レポート』は、社会経済的地位、性別やその他の文化的規範、人種・民族、年齢、地理的位置、性的指向、障害に基づく偏見や思い込みによる[医療の障壁](#)や医療結果の著しい格差に光を当てています」と、UICC 会長 Jeff Dunn AO 教授は述べています。「さらに重要なことは、多様な地域で直面している課題にローカルな洞察を提供し、的を絞った解決策へと私たちを導いてくれることです。」

特定のセクションでは、その国または地域に固有の推奨事項が示されていますが、UICC は、がん医療のギャップを埋めるために政府に以下の **9 つの一般的な推奨事項**を提供しています。

1. すべての患者集団の固有のニーズを認識し、治療の決定に患者が関与することを奨励する、**患者中心の医療を促進する**。
2. **がん研究への資金提供を増やし**、研究者、医療従事者、地域組織間の協力を奨励して、格差を理解し、対処する。



3. 政策決定および資源配分の指針となる**集団ベースのがん登録を確立し**、管理戦略を評価する。
4. 全国的ながん負担に関するエビデンスに基づく評価に基づき、**効果的な国家がん戦略を実施し**、十分なサービスを受けていない人々が直面する経済的困難や障壁に対処する。
5. ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成するために、国民健康保険に**包括的ながんサービスを組み込む**。
6. 文化的に適切な教材を使用し、効果的な患者とのコミュニケーションについて医療従事者を対象に研修を行い、**がんに関するヘルスリテラシーと教育を強化する**。
7. 増税、マーケティング制限、製品ラベルの改善、公衆教育キャンペーンを通じて、タバコ、アルコール、超加工食品などの**発がん性製品の製造、販売、マーケティングを規制する**。がんの30~50%は、修正可能なリスク行動に基づいて行動することで予防できる。
8. **一般的ながんの定期的なスクリーニングプログラムを実施し**、それらを既存の医療プログラムに統合し、遠隔医療サービスとモバイルユニットを利用して遠隔地の人々にリーチする。がんの発見が早ければ早いほど、治療の成功率が高くなり、医療費も少なく抑えられる。
9. 多様な社会的指標に基づく偏見や思い込みに取り組み、がん医療を受ける個人の能力を妨げる**健康の体系的な社会的決定要因に対処する**。

スウェーデンがん協会の事務局長であり、UICCの次期会長である Ulrika Årehed Kågström 氏は、次のように述べています。「社会経済的地位の低い人々にとって、**がんによる死亡リスクは、より恵まれた集団に属する人々と比較して、一般的に著しく高い**。高等教育を受けた人は、初等教育しか受けていない人に比べて、医療を求める際に、医療従事者と相談する時間が長く、そもそも医療を求めることを控える傾向が強い。社会経済的地位は、がん患者が治療を継続する可能性の程度にも影響する」と述べました。

「がん医療のギャップを埋めよう」キャンペーンの最終年を記念して、**UICC** は世界対がんデー・エクイティ・レポートで表明された感情や提言に共鳴する**行動を世界的に呼びかけ**、各国のがん関連団体や市民に対し、それぞれの保健省に連絡して公平な医療を提唱するよう促しています。

UICC はまた、スイスのジュネーブにある在外公館を通じて、すべての各国首脳に書簡を送り、2月4日の世界対がんデーの機会を捉えて、自国の健康とがん治療の公平性を向上させることを目的とした公約または発表を行うよう呼びかけています。過去の世界対がんデーにおける各国政府のこのような行動は、前向きな変化のための極めて重要な瞬間として機能してきました。



UICC の前会長であり、インドのアポロ病院の腫瘍学部長である D'Cruz 教授は、次のように述べています。「報告と分析を強化するデジタルツールや、遠隔医療や遠隔患者モニタリングなどの地方に住む患者が医療を受けやすくするテクノロジーは、医療のギャップを埋める鍵となります。」

### 2024 年「世界がんデー」エクイティ・レポートのダウンロード

###

メディアのお問い合わせ先：

詳細について、または UICC の担当者とのインタビューを手配するには、以下にお問い合わせください。

Eric Grant

UICC コミュニケーション&メディアマネージャー

[grant@uicc.org](mailto:grant@uicc.org)

+41 (0) 79 125 1523

###

#### ワールドキャンサーデーについて

ワールドキャンサーデーは毎年2月4日に開催され、世界が一丸となって前向きに、そして感動的な方法でがんの認知度を高めるための世界的な取り組みです。国際対がん連合(UICC)が主導するこの日は、世界中の政府や個人に行動を呼びかけながら、この病気についての関心を高めることで、毎年何百万人も命を救うことを目的としています。この日は世界最大規模の、健康に関する意識向上の日となっています。

詳細については、[www.worldcancerday.org](http://www.worldcancerday.org) をご覧ください。

#### 国際対がん連合 (UICC) について

国際対がん連合 (UICC) は、最大かつ最古の国際がん対策組織です。1933年に設立された UICC は、172 の国と地域に 1,150 を超える会員組織を擁しています。国連経済社会理事会 (ECOSOC) の諮問資格を有し、世界保健機関 (WHO)、国際がん研究機関 (IARC)、国際原子力機関 (IAEA)、国連薬物犯罪事務所 (UNODC) と公式な関係を結んでいます。UICC には、がんとの闘いに取り組んでいる団体、企業、財団など、50 を超えるパートナーがいます。UICC は、NCD アライアンス、McCabe 法とがんセンター、国際がん対策パートナーシップ (ICCP) の創設メンバーであり、2019年1月にシティがんチャレンジ財団を、2022年にがん治療薬アクセス連合 (ATOM) を設立しました。

UICC の使命は、世界のがんの負担を軽減し、公平性を高め、がん対策が世界の保健および開発アジェンダの優先事項であり続けるようにするための取り組みにおいて、がんコミュニティを団結させ、支援することです。革新的で広範囲にわたるがん対策のイベントやイニシアチブを通じて世界のリーダーを結集し、地域のニーズに応える能力を構築し、啓発キャンペーンを展開することで、これらの目標を追求しています。



**World  
Cancer Day**  
4 February

**Close**   
**the care**  
**gap** 



**Union for  
International  
Cancer Control**

[www.uicc.org](http://www.uicc.org)